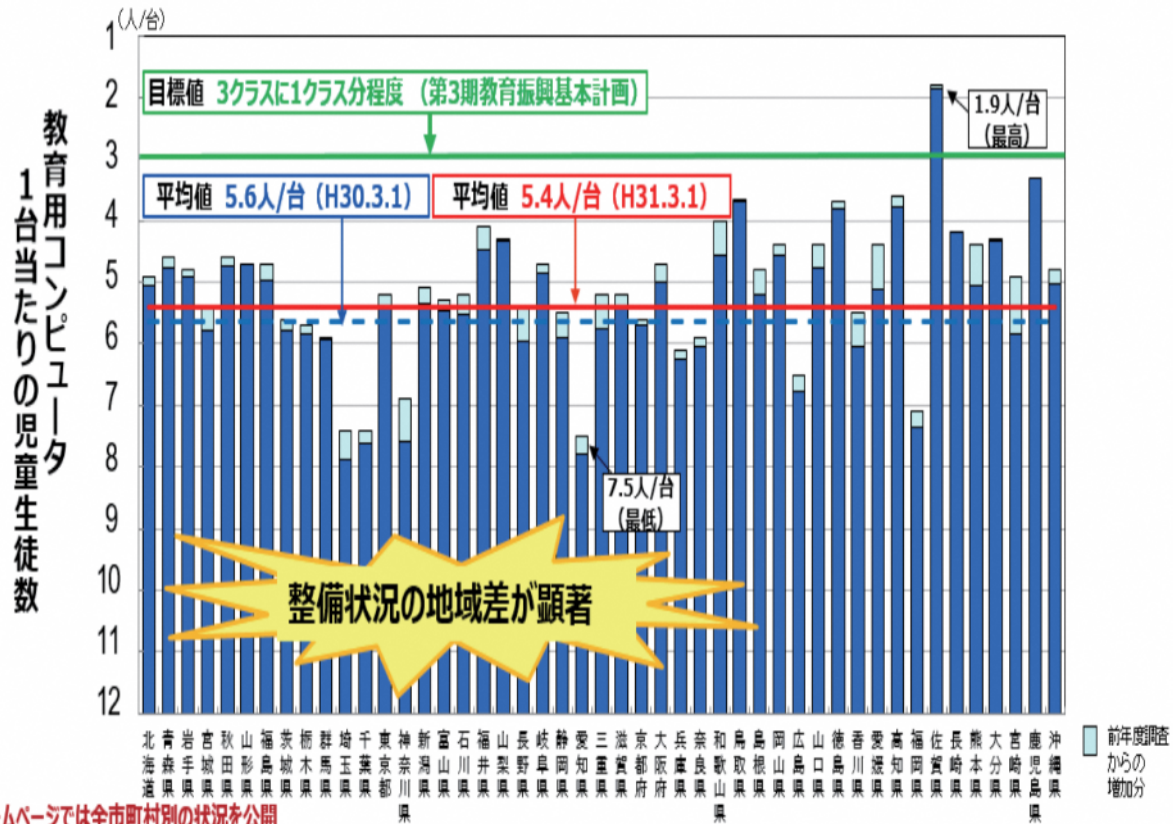


「GIGAスクール構想の着実な推進～1人1台端末の更新～」に向けた
国の動向と本市の1人1台端末活用の現状について

1 学校のICT環境整備状況は脆弱かつ危機的な状況

✓ 学校のICT環境整備状況は脆弱であるとともに、地域間での整備状況の格差が大きい危機的な状況



ホームページでは全市町村別の状況を公開

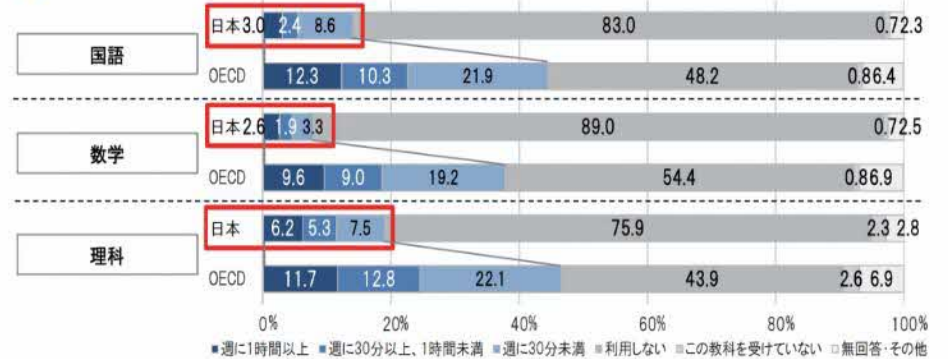
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1420641.htm

(出典：学校における教育の情報化の実態等に関する調査(確定値) (平成31年3月現在))

2 学校におけるICT利活用は世界から後塵を拝している状況

✓ 学校の授業におけるデジタル機器の使用時間はOECD加盟国で最下位

● 1週間のうち、教室の授業でデジタル機器を利用する時間

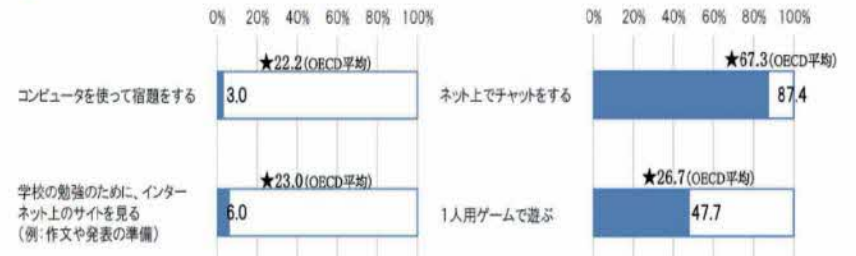


(出典：OECD生徒の学習到達度調査 (PISA2018) 「ICT活用調査」)

3 子供の学校外でのICT使用は「学習外」に比重

✓ 学校外でのICT利用は、学習面ではOECD平均以下、学習外ではOECD平均以上

● 学校外での平日のデジタル機器の利用状況 (青色帯は日本の、★はOECD平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計)



(出典：OECD生徒の学習到達度調査 (PISA2018) 「ICT活用調査」)

GIGAスクール構想の実現に向けた環境整備

GIGAスクール構想の実現

令和元年度補正予算額 2,318億円
 公立:2,173億円、私立:119億円、国立:26億円

(1) 校内通信ネットワークの整備

- 希望する全ての小・中・特支・高等学校等における校内LANを整備
- 加えて、小・中・特支等に電源キャビネットを整備

公立 補助対象：都道府県、政令市、その他市区町村
 補助割合：1/2 ※市町村は都道府県を通じて国に申請

私立 補助対象：学校法人
 補助割合：1/2

国立 補助対象：国立大学法人、
 (独) 国立高等専門学校機構
 補助割合：定額

(2) 児童生徒1人1台端末の整備

- 国公立の小・中・特支等の児童生徒が使用するPC端末を整備

公立 補助対象：都道府県、政令市、その他市区町村等
 補助割合：定額 (上限4.5万円)

私立 補助対象：学校法人
※市町村は都道府県を通じて国に申請

国立 補助対象：国立大学法人
 補助割合：定額 (上限4.5万円)

支援メニュー

① 校内LAN整備+端末整備

② 端末独自整備を前提とした校内LAN整備

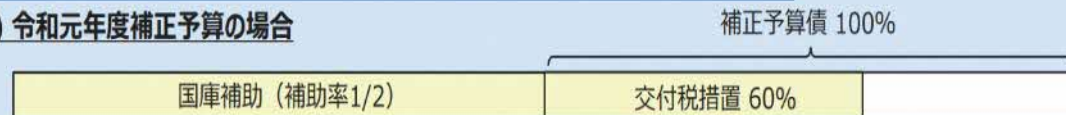
③ LTE通信費等独自確保を前提とした端末整備

措置要件

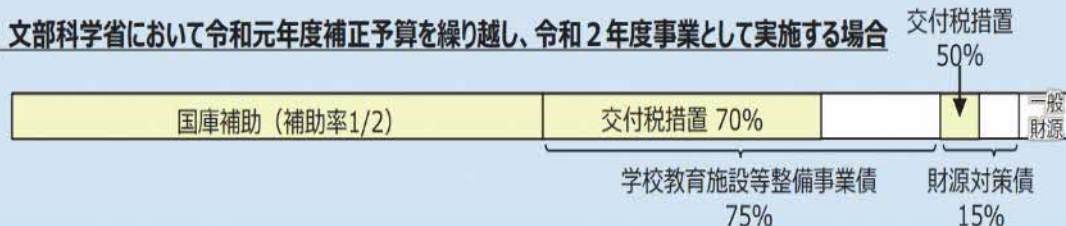
- ✓ 「1人1台環境」におけるICT活用計画、さらにその達成状況を踏まえた教員スキル向上などのフォローアップ計画
- ✓ 効果的・効率的整備のため、国が提示する標準仕様書に基づく、都道府県単位を基本とした広域・大規模調達計画
- ✓ 高速大容量回線の接続が可能な環境にあることを前提とした校内LAN整備計画、あるいはランニングコストの確保を踏まえたLTE活用計画
- ✓ 現行の「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画(2018~2022年度)」に基づく、地方財政措置を活用した「端末3クラスに1クラス分の配備」計画

校内通信ネットワーク整備事業に係る地方財政措置 (イメージ)

(1) 令和元年度補正予算の場合



(2) 文部科学省において令和元年度補正予算を繰り越し、令和2年度事業として実施する場合



学校のICT環境整備に係る地方財政措置

文部科学省では、新学習指導要領の実施を見据え「2018年度以降の学校におけるICT環境の整備方針」を取りまとめるとともに、当該整備方針を踏まえ「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画(2018~2022年度)」を策定しました。このために必要な経費については、2018~2022年度まで単年度1,805億円の地方財政措置を講じることとされています。

目標としている水準と財政措置額

- 学習者用コンピュータ 3クラスに1クラス分程度整備
 - 指導者用コンピュータ 授業を担当する教師1人1台
 - 大型提示装置・実物投影機 100%整備
各普通教室1台、特別教室用として6台
(実物投影機は、整備実態を踏まえ、小学校及び特別支援学校に整備)
 - 超高速インターネット及び無線LAN 100%整備
 - 統合型校務支援システム 100%整備
 - ICT支援員 4校に1人配置
 - 上記のほか、学習用ツール^(※)、予備用学習者用コンピュータ、充電保管庫、学習用サーバ、校務用サーバ、校務用コンピュータやセキュリティに関するソフトウェアについても整備
- (※) ワープロソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどはじめとする各教科等の学習活動に共通に必要なソフトウェア

標準的な1校当たりの財政措置額

都道府県 高等学校費 434 万円 (生徒642人程度)

特別支援学校費 573 万円 (35学級)

市町村 小学校費 622 万円 (18学級)

中学校費 595 万円 (15学級)

1人1台端末で学びが変わる

学びへの活用 ICTの「学び」への活用

“すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも”使えるICT

検索サイトを活用した調べ学習

- 一人一人が情報を検索し、収集・整理
- 子供たち自身が様々な情報にアクセスし、主体的に情報を選択する



文章作成ソフト、プレゼンソフトの利用

- 子供たち一人一人が考えをまとめて発表
- 共同編集で、リアルタイムで考えを共有しながら学び合い



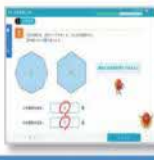
一斉学習の場面での活用

- 誰もがイメージしやすい教材提示
- 一人一人の反応や考えを即時に把握しながら双方向的に授業を進める



一人一人の学習状況に応じた個別学習

- デジタル教材を活用し、一人一人の学習進捗状況を可視化
- 様々な特徴を持った生徒によりきめ細やかな対応を行う



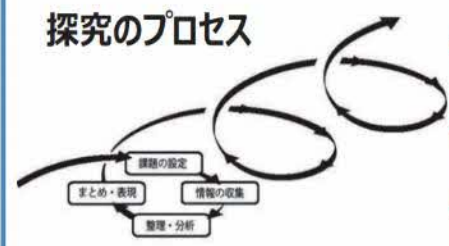
“1人1台”を活用して、教科の学びをつなぐ。社会課題の解決に生かす。

ICTを含む様々なツールを駆使して、各教科等での学びをつなぎ探究するSTEAM教育※

※Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics等の各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育

探究のプロセスにおける様々な場面において、ICTを効果的に活用することができる

探究のプロセス	ICTの活用
課題の設定	実社会の問題状況に関わる課題、進路や教科等、横断的な課題などを設定
情報の収集	文献検索、ネット検索、インタビュー、アンケート、実験、フィールドワーク等
整理・分析	統計による分析、思考ツール、テキストマイニング等で分析
まとめ・表現	論文作成、プレゼンテーション、ポスターセッション、提言等で発信

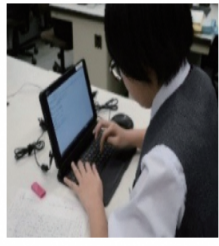


“1人1台”を活用して、教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。

国語

書く過程を記録し、よりよい文章作成に役立てる

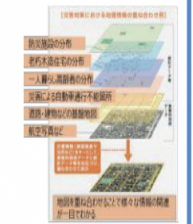
- 文書作成ソフトで文章を書き、コメント機能等を用いて助言しあう
- 文章作成ソフトの校閲機能を用いて推敲し、データを共有する



社会

国内外のデータを加工して可視化したり、地図情報に統合したりして、深く分析する

- 各自で収集したデータや地図を重ね合わせ、情報を読み取る
- 分析した情報を、プレゼンソフトで、わかりやすく加工して発表

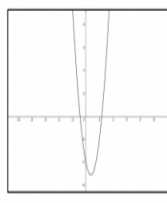


(国土交通省HPより引用)

算数・数学

関数や図形などの変化の様子を可視化して、繰り返し試行錯誤する

- 画面上に表示した二次関数のグラフについて、式の値を変化させて動かしながら、二次関数の特徴を考察する
- 正多角形の基本的な性質をもとに、プログラミングを通して正多角形の作図を行う



理科

観察、実験を行い、動画等を使ってより深く分析・考察する

- 観察、実験を動画等で記録することで、現象を科学的に分析し、考察を深める
- 観察、実験のレポートやプレゼンテーション資料などを、写真やグラフを挿入するなどして、一人一人が主体的に作成する



タブレットを見ながら実験を振り返り。

外国語

海外とつながる「本物のコミュニケーション」により、発信力を高める

- 一人一人が海外の子供とつながり、英語で交流・議論を行う
- ライティングの自動添削機能やスピーキングの音声認識機能を使い、アウトプットの質と量を大幅に高める



G I G Aスクール構想

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

これまでの
教育実践の蓄積

×

ICT

=

学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの
授業改善

小中学校での1人1台端末の活用事例

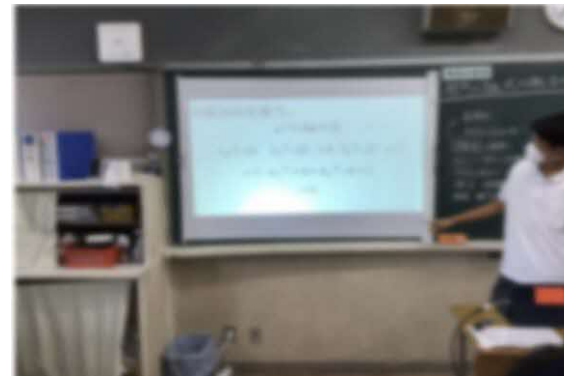
活用例【授業】



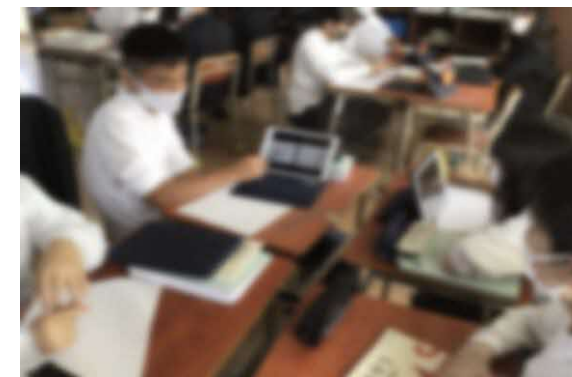
1人1台端末を用いて個別最適な学びと協働的な学びの実現へ授業改善。教員はあくまでファシリテート。



実技教科では、カメラを活用して、自分がどのように表現できているかを確認



子どもが作成したスライドをもとに授業解説

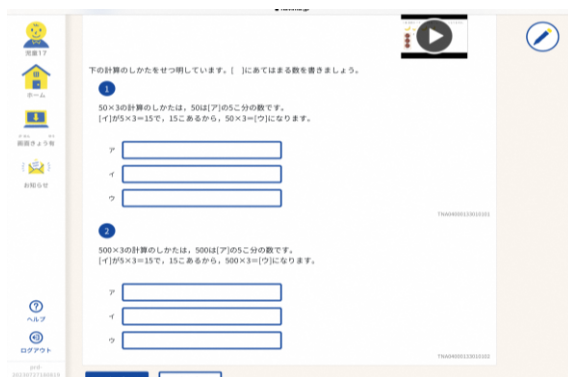


1人1台端末を用いて協働的な学びを実践

活用例【家庭学習】



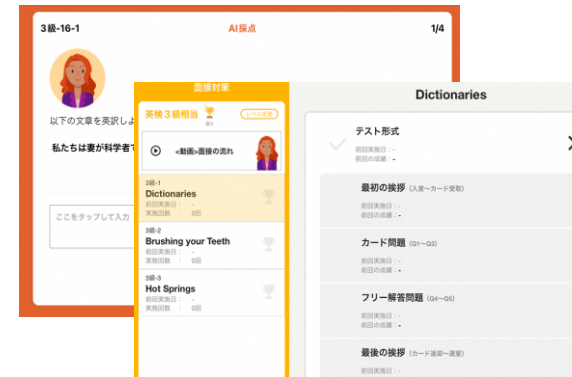
学校で学んだことを家庭学習にも接続、自分で分かったことを家で改めて表現します。



AIドリルの活用で、好きな教科の単元を学べます。学年を超えたドリルの実施も可能。



子どもが家庭で作成したスライド資料を一覧で確認。(探究的な学び)

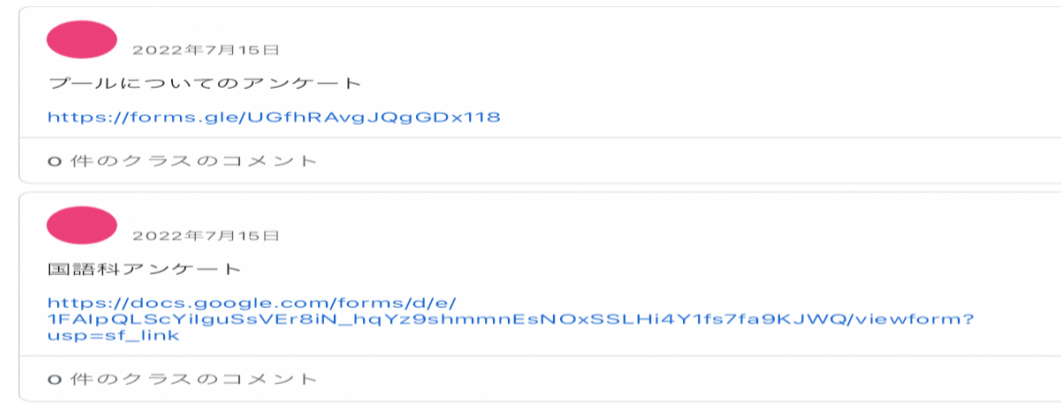


自分のペース、目標級を決め、English 4skills(AIドリル)を使って、4技能を鍛える。

活用例【校務】



連絡帳や手紙の配付もデジタルで実施。欠席や遅刻も受け取ることが可能。



保護者アンケートや児童生徒アンケートもGoogle forms等を活用することで、アンケート実施から集約までの一連の流れをデジタル化。



会議資料はクラウドへアップし、事前に確認。議事録や資料も同時に編集でき、時間短縮。



校内研修会で講師から資料や課題を1人1台端末へ送付。課題に取り組み、瞬時にグループで共有可能。

GIGAスクール構想の着実な推進 ～1人1台端末の更新～

令和6年度要求・要望額

148億円
(新規)



文部科学省

現状・課題

- 全ての生徒たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、令和2～3年度に「1人1台端末」と高速通信ネットワークを集中的に整備し、GIGAスクール構想を推進。学校現場では活用が進み、効果が実感されつつある。
- 一方、1人1台端末の利活用が進むにつれて、故障端末の増加や、バッテリーの耐用年数（4～5年程度）が迫るなど、早い自治体では令和6年度中の更新を要する。
- このため、GIGAスクール構想第2期を念頭に、今後、**3～4年程度をかけて端末を計画的に更新するとともに、端末の故障時等においても生徒たちの学びを止めない観点から、予備機の整備を進めること**とし、当面令和6年度の更新等に要する経費を要求する。

骨太の方針2023【令和5年6月16日閣議決定】（抜粋）

第4章 中長期の経済財政運営 5. 経済社会の活力を支える教育・研究活動の推進

（質の高い公教育の再生等）

GIGAスクール構想について、次のフェーズに向けて周辺環境整備を含め、ICTの利活用を日常化させ、人と人の触れ合いの重要性や発達段階、個人情報保護や健康管理等に留意しながら、誰一人取り残されない教育の一層の推進や情報活用能力の育成など学びの変革、校務改善につなげるため、運営支援センターの全国的な設置促進・機能強化等徹底的な伴走支援の強化により、家庭環境や利活用状況・指導力の格差解消、好事例の創出・展開を本格的に進める。各地方公共団体による維持・更新に係る持続的な利活用計画の状況を検証しつつ、国策として推進するGIGAスクール構想の1人1台端末について、公教育の必須ツールとして、更新を着実に進める。

事業内容

【補助内容】

補助対象	①児童生徒数全体の2/3台分 ②予備機（①の5%以内）
実施主体	都道府県、市町村
補助割合	定額補助
補助上限	4.5万円/台

※国私立学校の学習者用端末や障害のある児童生徒のための入出力支援装置も別途要求

【事業スキーム】

- ①都道府県、市町村が児童生徒が使用するPC端末を整備する経費を補助。
- ②前回整備時同様に、端末整備に当たってはリース・買取の両方を可能とする。
- ③小規模自治体の調達支援と整備後の広域での利活用を効果的・効率的に進める観点から、都道府県等の適切な関与の下での共同調達を強く推奨。

【補助要件等】

- ①日常的な利活用計画を立てること。
- ②補助対象の端末とあわせ、残りの1/3の端末や予備機等の確実な整備。
- ③一人一台の指導者用端末について確実な整備。
- ④アダプタを付ければ活用可能な古い端末はリユースを徹底するとともに適切なリサイクル計画の策定
- ⑤その他、第1期の整備における課題を十分踏まえた整備・運用計画の策定等

（担当：初等中等教育局修学支援・教材課）

教育振興基本計画

令和5年6月16日
閣議決定

目標11 教育DXの推進・デジタル人材の育成

教育においてICTの活用が「日常化」するよう、初等中等教育段階では、基本的方針で示したとおり、当面DXの第3段階を見据えながら、第1段階から第2段階への移行を着実に進めるとともに、第3段階に相当する先進事例の創出、高等教育におけるデジタル人材育成、社会教育分野のデジタル活用推進等に取り組む。

目標12 指導体制・ICT環境の整備、教育研究基盤の強化

教師の養成、採用、研修の改革や、魅力ある優れた教師の確保・資質能力の向上を進めるとともに、学校における働き方改革の更なる加速化、処遇改善、指導・運営体制の充実を一体的に進める。また、ICTの活用、支援スタッフとの連携・分担体制の構築等を通じて、教師が教師でなければできないことに注力できる体制を整備し、教職の魅力向上、教師のウェルビーイングの向上を目指す。高等教育段階においては、学長のリーダーシップと責任の下、教育研究の質向上に向けた基盤の強化等を行う。

【指標】

- ・児童生徒の情報活用能力（情報活用能力調査の能力値）の向上
- ・教師のICT活用指導力（授業にICTを活用して指導する能力、児童生徒のICT活用を指導する能力）の改善
- ・児童生徒一人一人の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面でのICT機器の活用頻度の増加
- ・児童生徒同士がやりとりする場面でのICT機器の活用頻度の増加
- ・ICTを活用した校務の効率化の優良事例を十分に取り入れている学校の割合の増加
- ・ICT機器を活用した授業頻度の増加
- ・全国の運営支援センターのカバー率の増加（令和6年度までの目標値：100%）
- ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）の認定プログラムにおける1学年当たりの受講対象学生数の増加

【指標】

（初等中等教育段階）

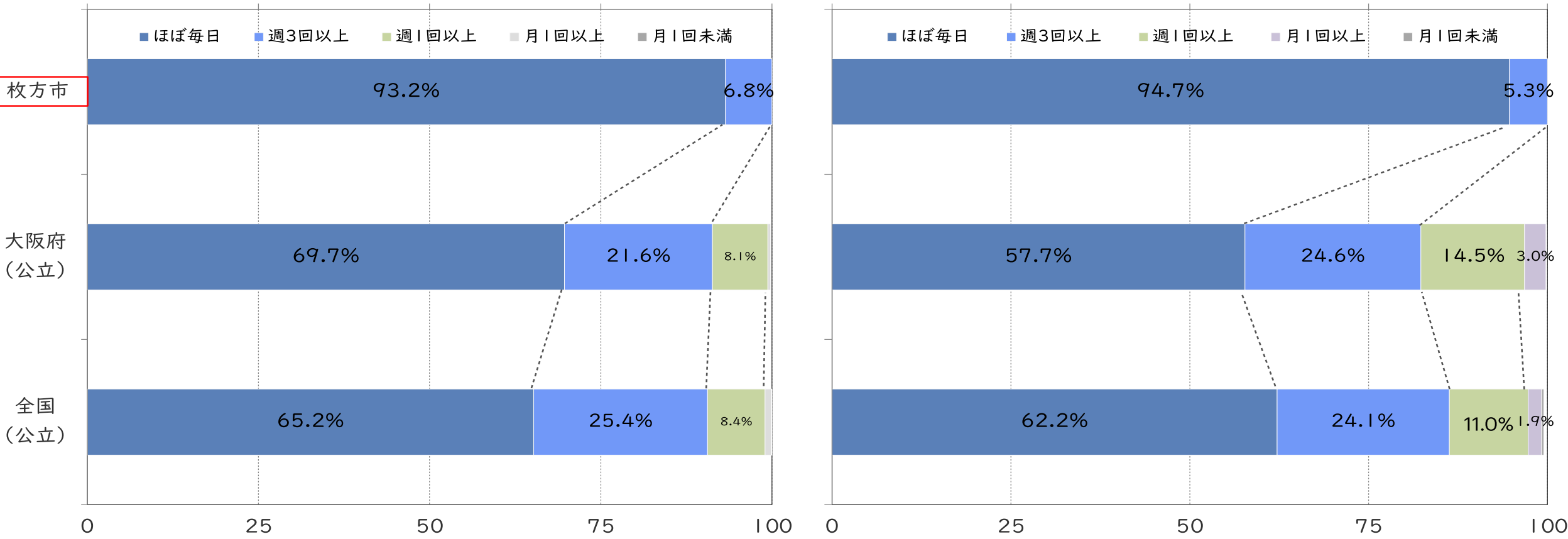
- ・教師の在校等時間の短縮
- ・教育委員会における働き方改革の取組状況・在校等時間の公表割合の増加
- ・教師の業務負担を軽減するため、教員業務支援員をはじめとした支援スタッフの参画を図っている教育委員会の割合の増加
- ・特別免許状の授与件数の増加
- ・教員採用選考試験における優れた人材を確保するための取組状況の改善
- ・教員研修の効果的な実施に係る取組状況の改善
- ・小学校・中学校の教員免許状の併有状況の改善
- ・児童生徒1人1台端末水準維持（教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数）
- ・指導者1人1台端末水準の向上（指導者用コンピュータ1台当たりの教員数）
- ・同時接続率を考慮して児童生徒1人当たり2Mbps以上など、必要な通信速度を学校規模に応じて確保できている学校の割合の増加
- ・1人1台端末環境を円滑に運営するための十分なサポート体制が構築されている自治体の割合の増加
- ・ICT機器を活用した授業頻度の増加（再掲）
- ・ICT支援員の配置人数の増加

1人1台端末を活用した授業頻度

調査対象学年の児童生徒に対して、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。(質問番号55・63)

小学校

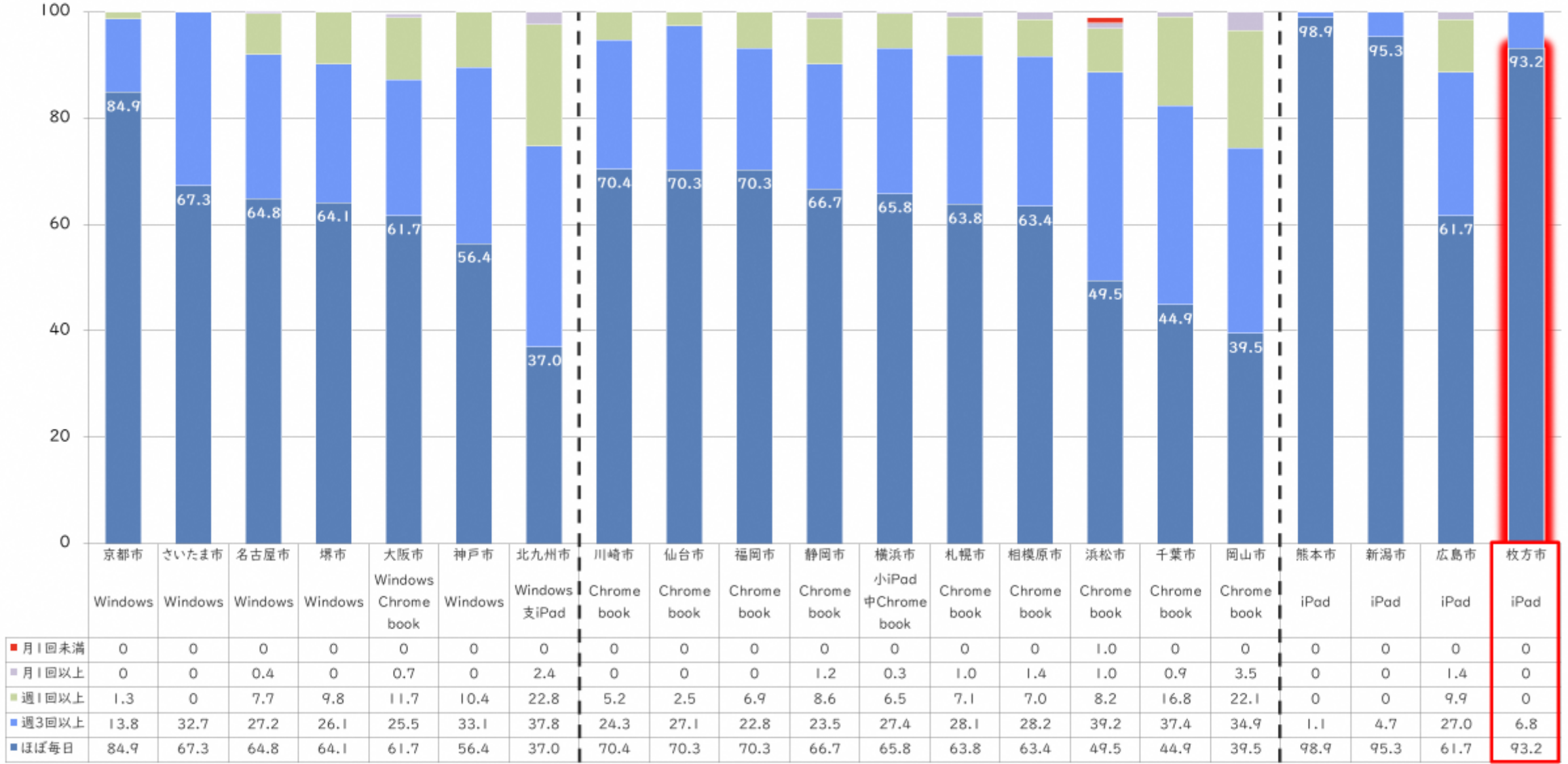
中学校



出典: 令和5年度全国学力・学習状況調査 回答結果集計[学校質問紙] 令和5年4月18日実施

1人1台端末を活用した授業頻度～政令指定都市と本市の比較(小学校)～

調査項目:調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか(※)

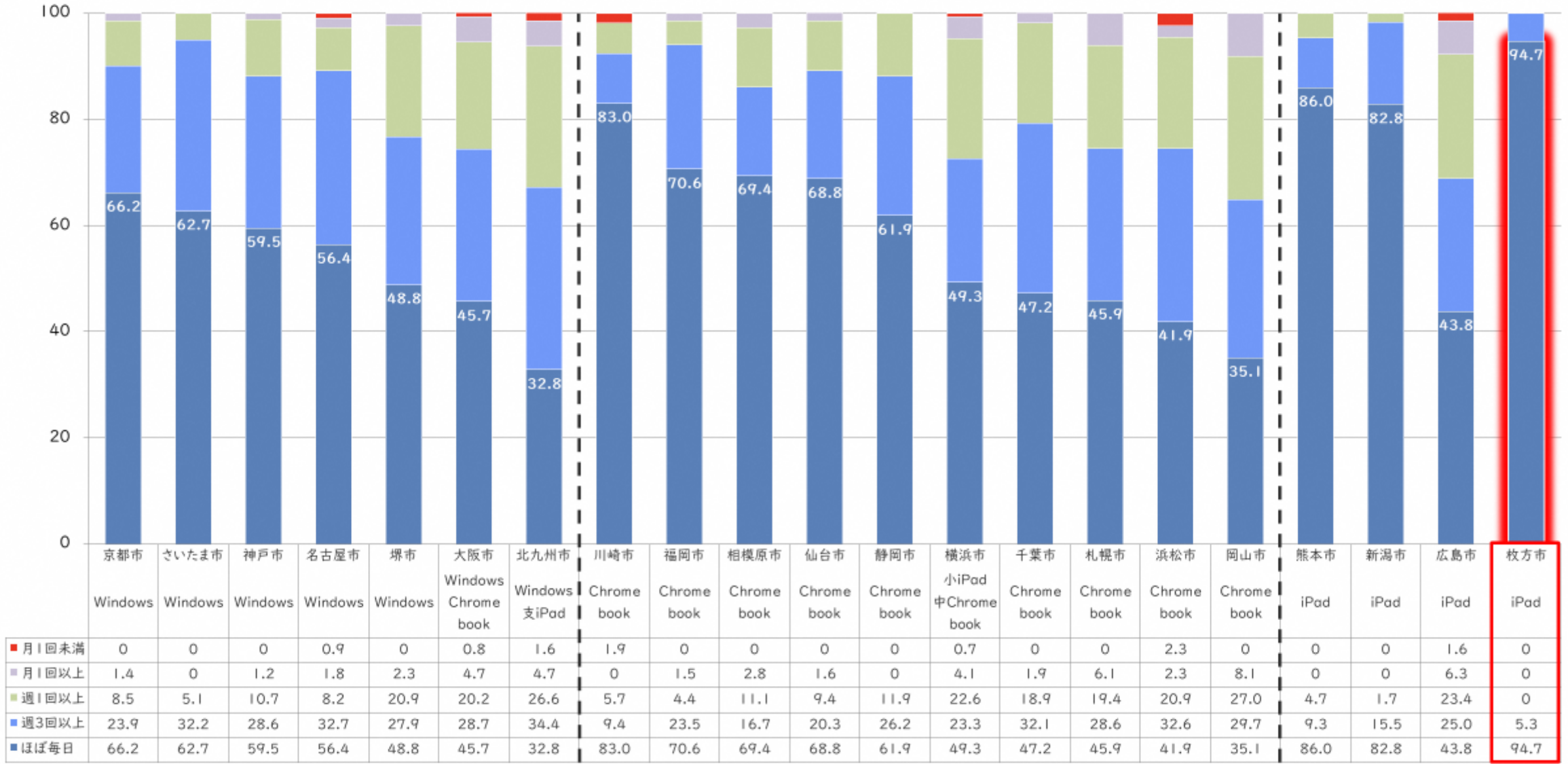


■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

※現在の小学校6年生か令和4年度までに受けた授業での活用割合について調査
 出典:令和4年度全国学力・学習状況調査 回答結果集計[学校質問紙] 令和5年4月18日実施に枚方市の結果を加筆

1人1台端末を活用した授業頻度～政令指定都市と本市の比較(中学校)～

調査項目:調査対象学年の児童に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか(※)



■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

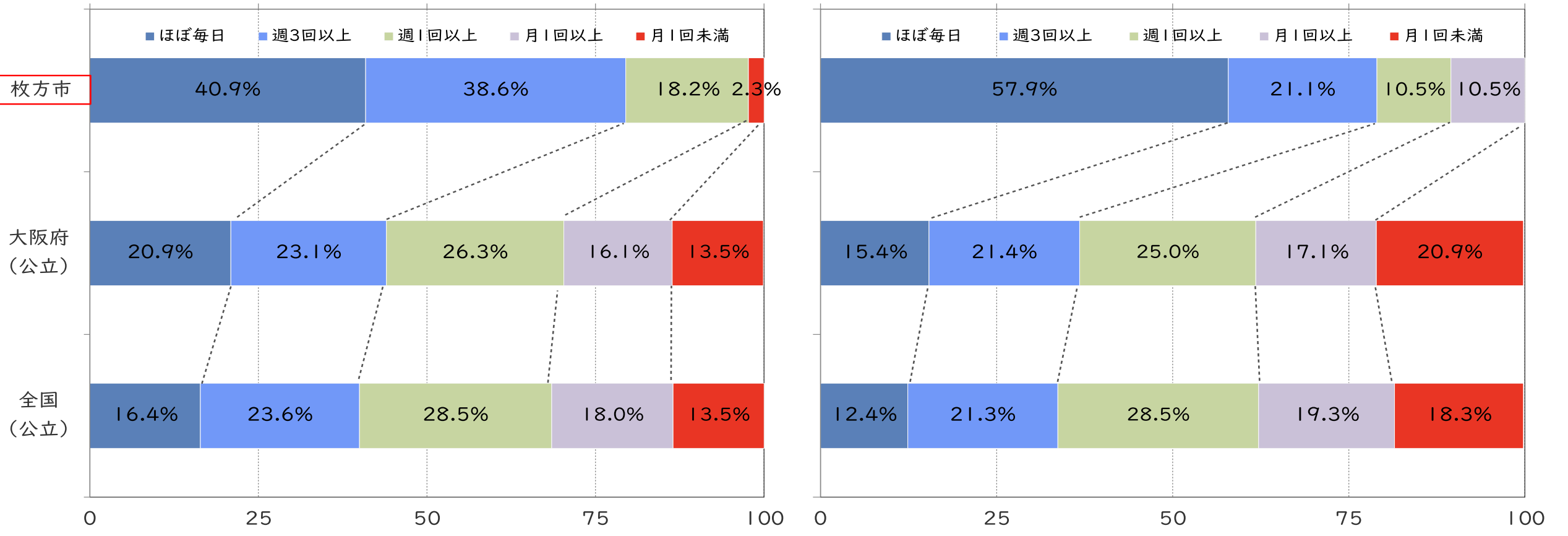
※現在の中学校3年生が令和4年度までに受けた授業での活用割合について調査

1人1台端末を活用した協働的な学びの頻度

調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。(質問番号59・67)

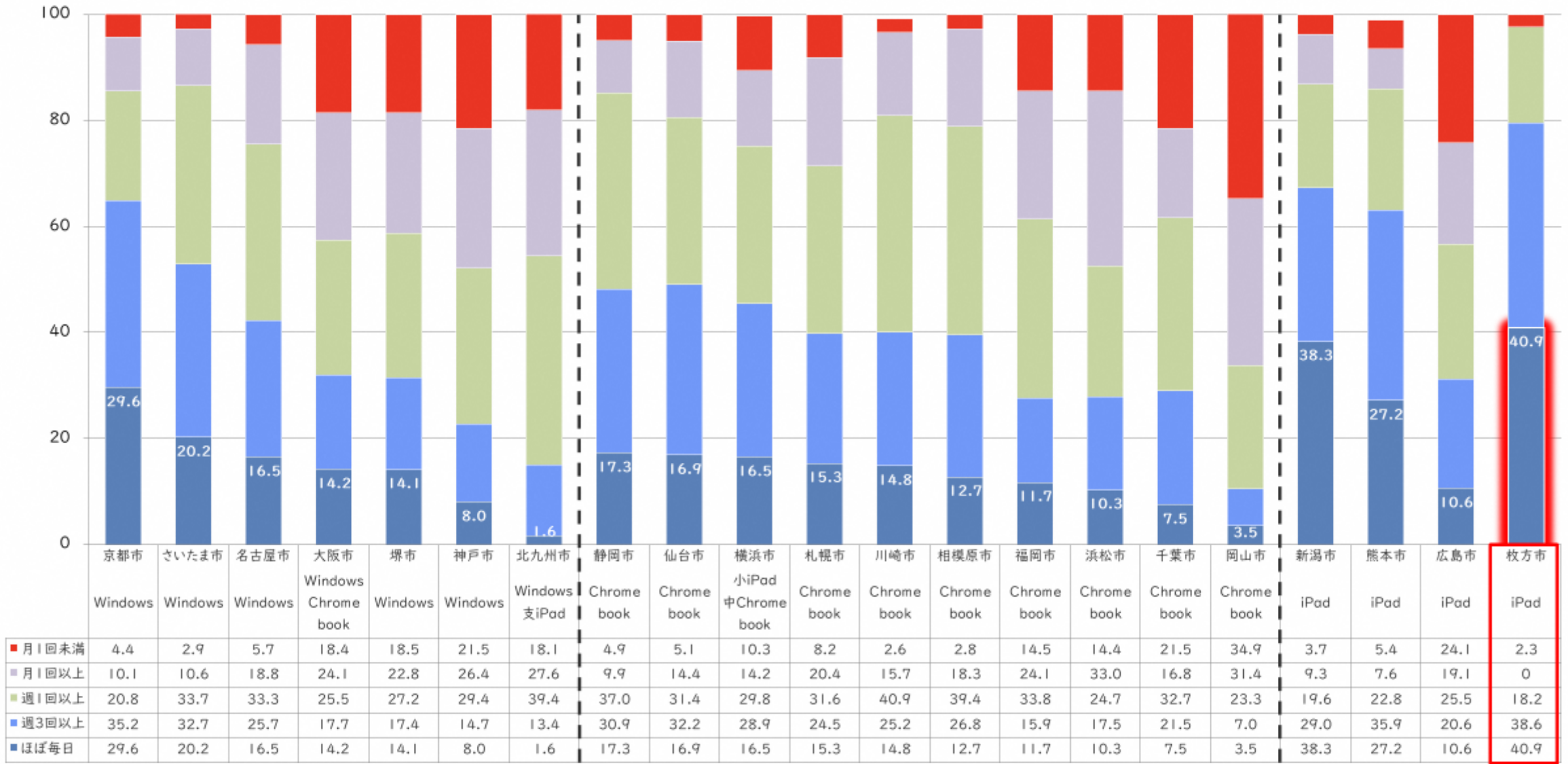
小学校

中学校



1人1台端末を活用した協働的な学びの頻度～政令指定都市と本市の比較(小学校)～

調査項目:調査対象学年の児童同士がやりとりする場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用させていますか。

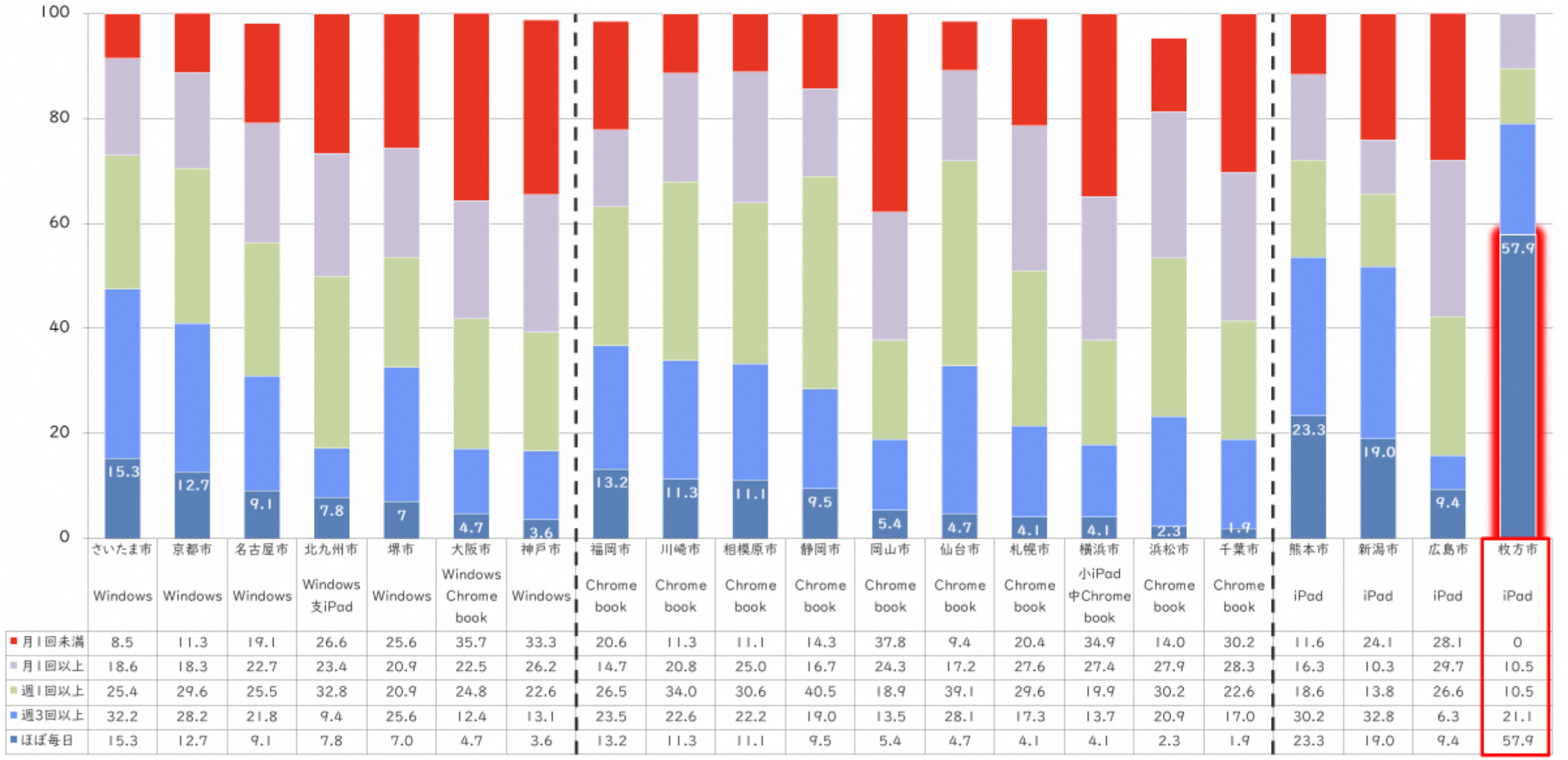


■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

※現在の小学校6年生か令和4年度までに受けた授業での活用割合について調査

1人1台端末を活用した協働的な学びの頻度～政令指定都市と本市の比較(中学校)～

調査項目:調査対象学年の生徒同士がやりとりする場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用させていますか。

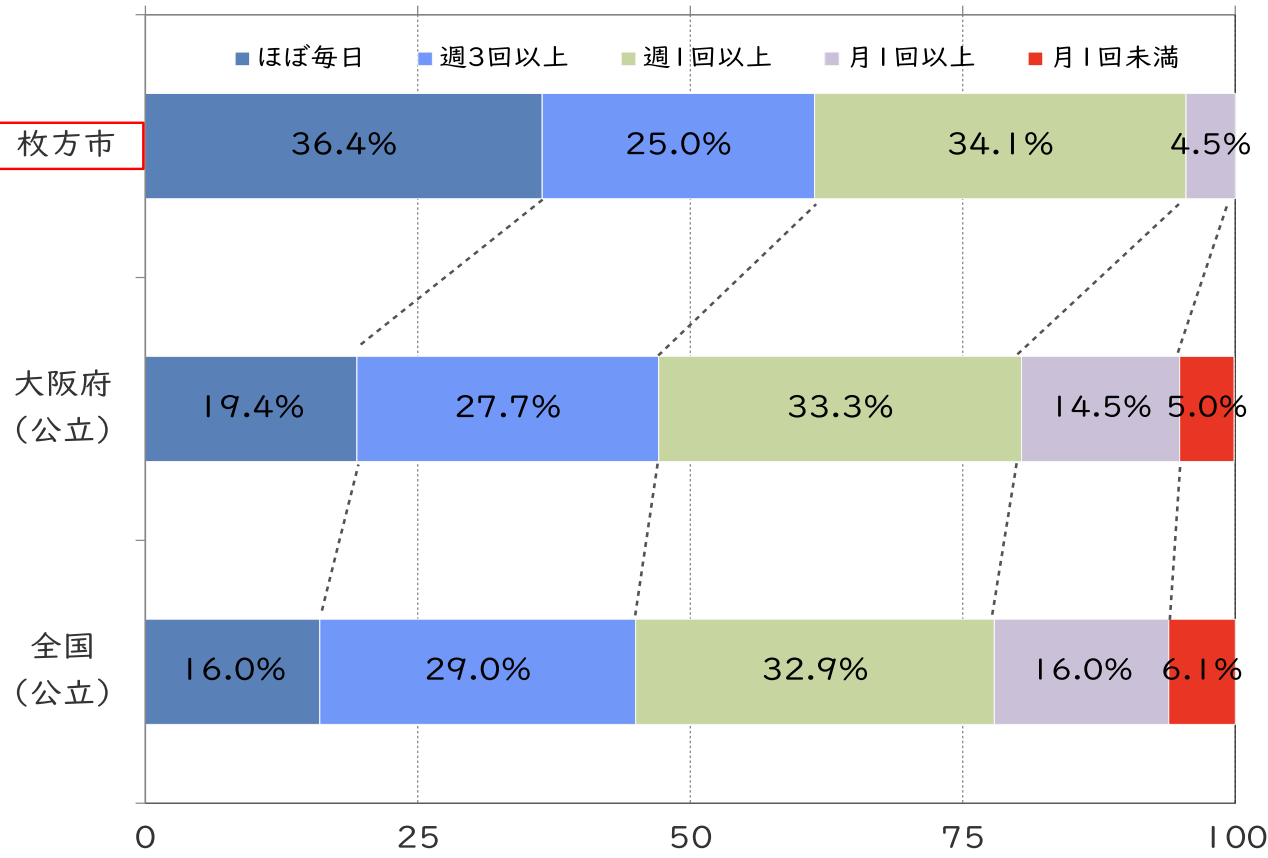


■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

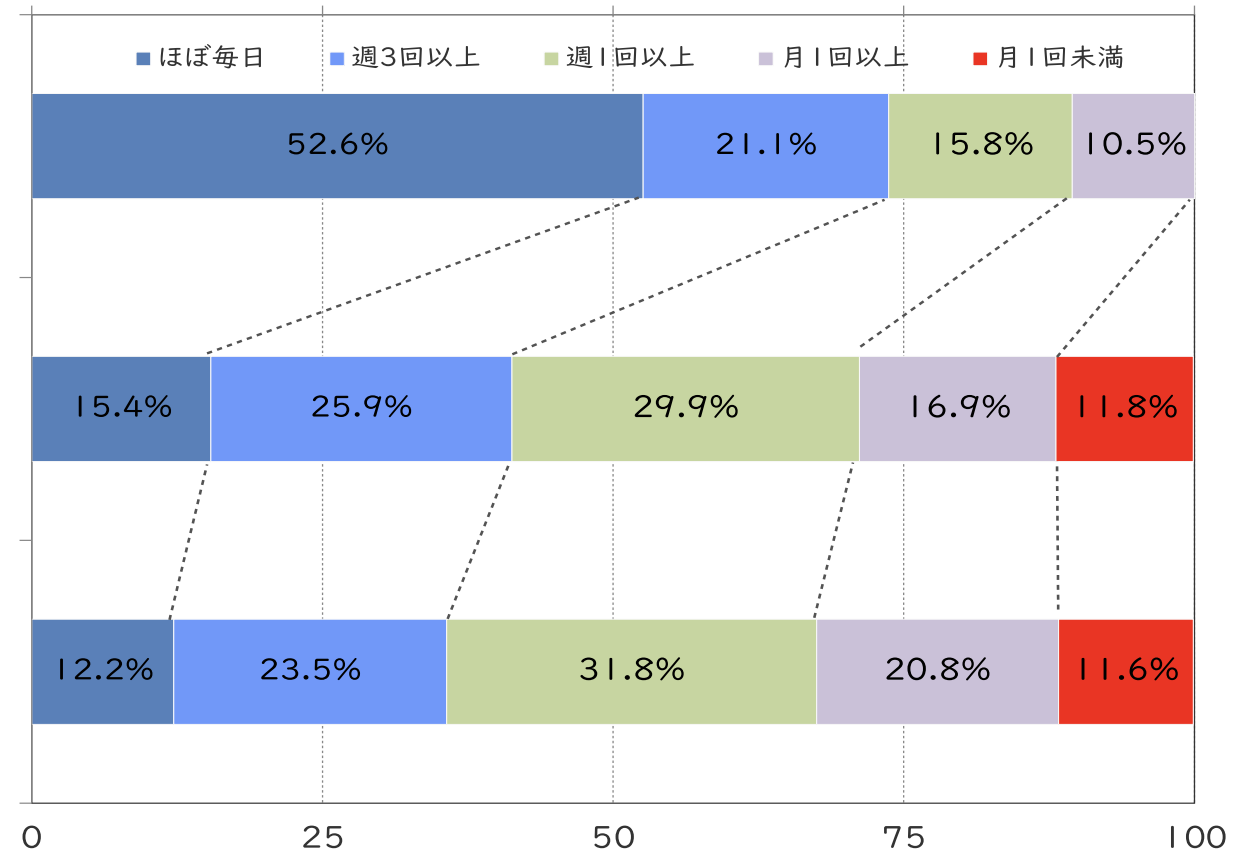
1人1台端末を活用した個別最適な学びの頻度

児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。(質問番号60、68)

小学校

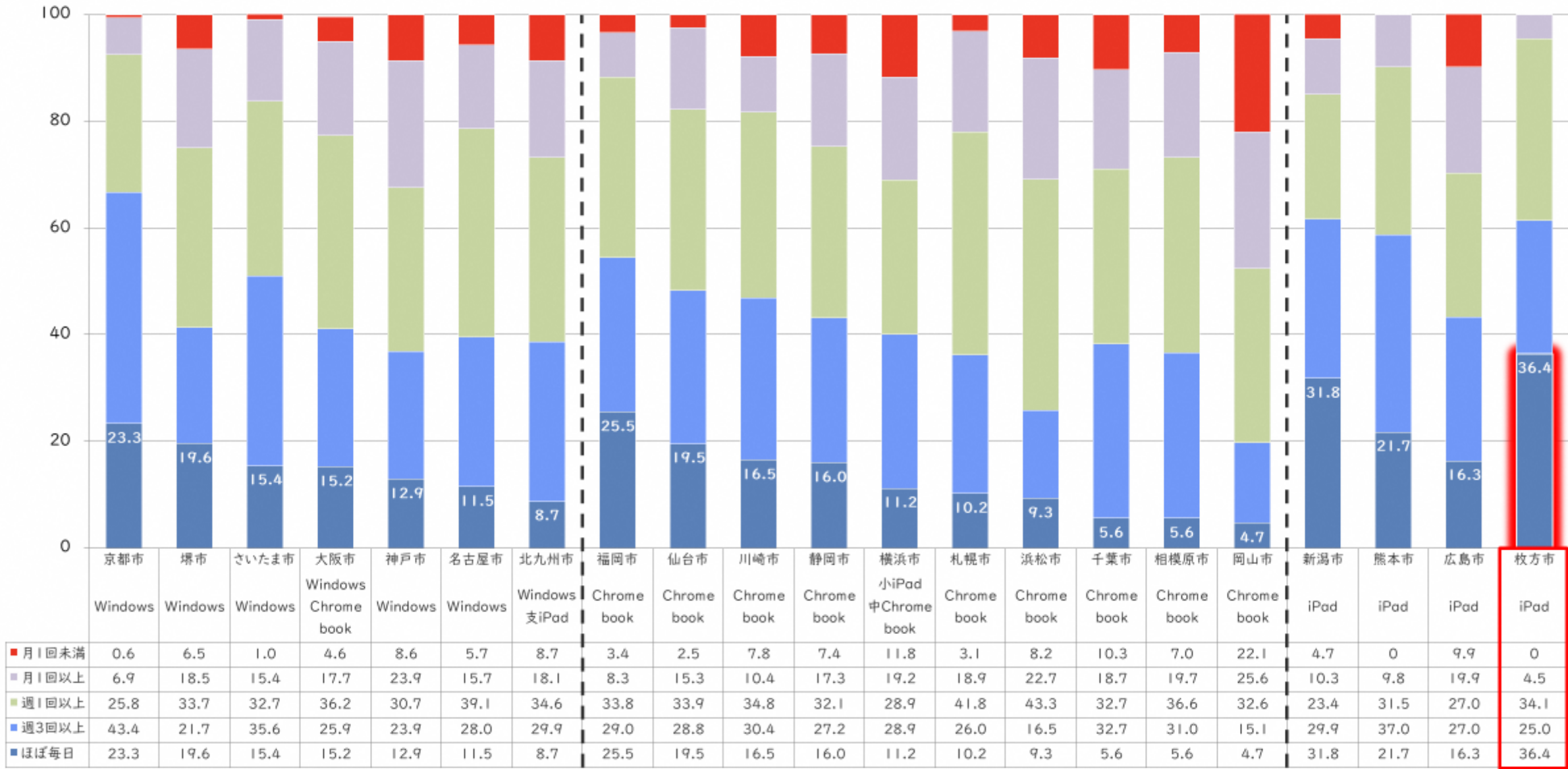


中学校



1人1台端末を活用した個別最適な学びの頻度～政令指定都市と本市の比較(小学校)～

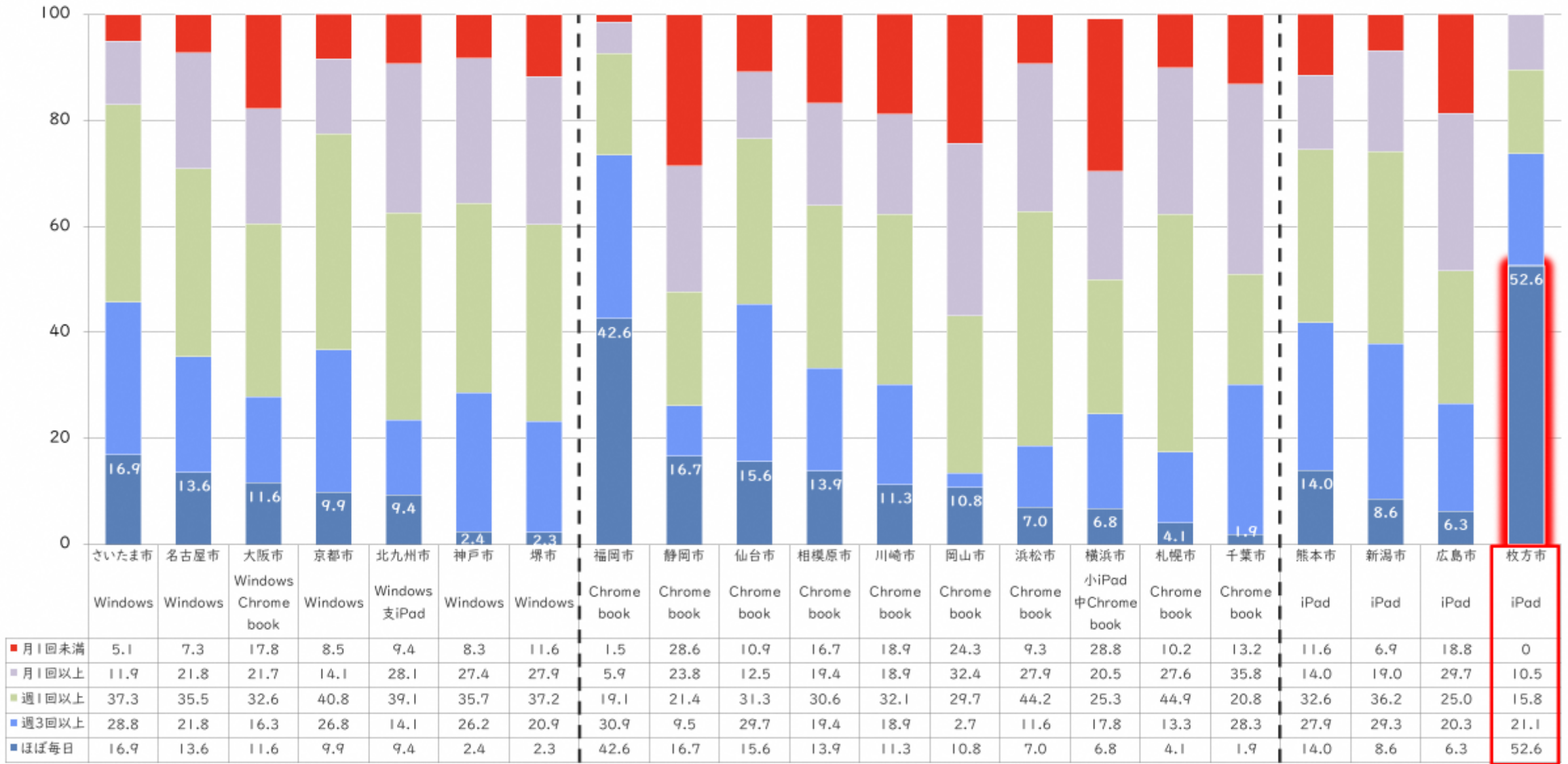
調査項目:調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。



■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

1人1台端末を活用した個別最適な学びの頻度～政令指定都市と本市の比較(中学校)～

調査項目:調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満